



つくばね vol.28no.4

目次

- 1 蔵書自慢
- 3 電子図書館シンポジウム報告
- 6 本学教官寄贈著書紹介
- 7 私の一冊
- 8 Ask Us としょかんミニガイド
- 9 とびっくす
- 10 掲示板



蔵書自慢

井上 修一

私はドイツ文学を学んでいるが、その中でもとくにオーストリアの文学を読むことが多い。ドイツ人が書いたものより当たりが柔らかくて好きだからである。持っている本もオーストリア関係の比率が高い。

オーストリアは小さな国で、人口はわずか800万にすぎない。お隣の人口8000万の大国ドイツとは言語も民族も同じであるから、飲み込まれてしまいそうである。オーストリアの新聞のオーナーはたいがいドイツ人であるといえば、その危険のほどがお分かりいただけると思う。資本がドイツでは、いくら独立、不偏、中立の紙面を作るといっても自ずから限界がある。

ドイツと国境を接するザルツブルク州はオーストリア・アルプスの中でも風光明媚な土地として知られているが、この州の高級別荘地の売買はドイツ人不動産屋の手に握られている。所有者も購入者もドイツ人だからである。ドイツの前首相ヘルムート・コールは在任中、意地の悪い記者からなぜ休暇をドイツではなく毎年オーストリアで過ごすのかと問われたとき、「オーストリアはドイツではないが、外国でもない」と応えた。ドイツ

の首相から独立国扱いを受けていないのであるから、オーストリアの文学がひとくくりにドイツ文学と呼ばれているのも止むを得ない。

ところが、第二次世界大戦中にナチス・ドイツに占領された苦い体験などもあって、戦後、オーストリアの文学をドイツ文学から切り離し、独立させようという動きが活発になっている。オーストリアにはドイツ文学と一味違う独自の文学が存在するはずだという小国の自己主張である。

しかし今日までのところ、オーストリア文学の特質をドイツ文学との対比において説得的に論じた書物は目にしたことがない。オーストリア文学が存在すると考えている人がいる以上、存在するはずだという確信でしかなく、神の存在証明の域を出ていない。

ただ、オーストリア人の肩を持つわけではないが、二十世紀のドイツ文学を見る限り、オーストリア系作家の活躍は目を見張らせるものがある。「オーストリア人作家」の定義に少し難しいところはあるが、少なくともオーストリア人の目からすればホーフマンスタールモリルケもカフカ、ムージル、ツヴァイク、さらにはノーベル文学賞を

取ったカネッティもオーストリア人なのである。

しかし、ドイツ人はドイツ文学と異なるオーストリア文学が存在するなどとは全く考えていない。仮にあったとしても、それはドイツ文学の中のアルプス地方の郷土文学に過ぎないと思っている。ドイツ人が編む数あるドイツ現代文学史の中で、東独の文学に独立した章があてがわれていることはあっても、オーストリア文学が独立して扱われることはない。ドイツ文壇のご意見番ライヒ＝ラニツキは自分の編纂した「20世紀のドイツ文学者」(1994)という二巻本にそれぞれ副題をつけている。上巻は「シュニツラーからムーゼルまで」、下巻は「ロートからブルガーまで」となっている。四人ともれっきとしたオーストリア人であるが、このドイツ文学界の法王は「オーストリア文学など些細な地方色だから考慮する必要はない」といって意に介さない。

オーストリア文学のこの独立運動はオーストリアの作家の側にも弱みがある。彼らは郷里で少し名前が出ると首都のウィーンに出て行くが、やがて作品をドイツの出版社から出したがる。読者を人口800万より、8000万の中から探した方が得だからである。つまり、オーストリアの作家は一方でオーストリア文学のアイデンティティーを主張しながら、他方ではドイツの作家になりたがる。ドイツの一流書評紙に取り上げられ、ドイツの一流出版社から本が出るようになってはじめて、オーストリアの作家として一人前になるのである。

ドイツ文学と異なるオーストリア文学が存在するかどうかは分からない。しかし、オーストリア人が文化的アイデンティティーを求めようとする気持ちはよく分かる。大国ドイツに隣接する小国としては、文化以外に自己主張の道がないのである。

しかし、大掛かりな文化事業を行うにはオーストリアという国の規模が小さすぎる。したがって、この国には多くの国が持っている文化財で、ないものがたくさんある。たとえば、国語の辞典である。国語の辞書はドイツのドイツ語辞典で間に合わせている。その穴を埋める形で申し訳程度

に、簡単なオーストリア方言事典が出ている。

百科事典もない。ドイツは17世紀以来、本格的網羅的な百科事典を持っている。ただ、古い百科事典の中には百科事典と言わずに会話事典(Conversationslexikon)となっているものもある。社交界で気の利いた会話をするための道具だったのである。そしてそこにはもちろんオーストリアのことも載っている。しかしドイツに比べると取り上げられ方が少ない。そこでオーストリアはオーストリア事典を編纂して、ドイツの百科事典の不足を補っている。その種のものの中で一番本格的なのは、1883年から刊行の始まった「解説と図説によるオーストリア・ハンガリー帝国(Die österreichische-ungarische Monarchie in Wort und Bild)」(24巻)であろう。当時の皇太子ルードルフが編集協力したことで知られる。もっとも、これは文化誌体系といった方がよく、アルファベット順にもなっていないので、事典の中に入れるのは不適當かもしれない。

ところで、オーストリア人は人名事典が好きなので、オーストリア人名事典ならいくつもある。現在もオーストリア科学アカデミーによる本格的なものが刊行中である。第二次大戦の敗戦から国が立ち直るとすぐに編纂に取りかかったもので、1957年に刊行が開始され、現在は第10巻のSのところまでたどりついている。

人名事典の企画は第一次世界大戦直後にもあった。ペテルハイムによる人名事典、伝記集、文献・資料の三部からなる壮大な計画であった。敗戦でハプスブルク帝国が消滅し、領邦国家が独立していったので、帝国全体の記録を残そうとしたのである。しかしこれは構想が大き過ぎ、伝記の刊行が始まっただけで、他の企画は頓挫してしまった。伝記集だけはこれまで二十二巻を数え、現在も続巻の編纂が続いている。刊行中の先の人名事典とこの伝記集は本学の中央図書館にも入っている。

1848年の市民革命の失敗の後にも人名事典が出たことがある。ヴルツバハの編纂による60巻に及ぶ記念碑的な「オーストリア帝国人名事典」である。1750 - 1850年の100年間だけを対象にして60巻



解説と図説によるオーストリア・ハンガリー帝国



オーストリア帝国百科事典

であるから、記述は詳細を極めている。こちらは、一橋大学と名古屋大学、山梨医大に入っている。

革命や戦争などによる国家存亡の危機を克服すると、まず国家的事業として自国の人名事典の編纂を考えると、いかにもオーストリア人らしい。オーストリアという国では人間関係が大切で、素性と肩書とコネが物を言うのである。

百科事典と銘打っているが、実際にはオーストリアの記述しかない事典が刊行されたことがある。1835年から37年にかけて出た6巻本の「オーストリア帝国百科事典 (Oesterreichische National-Encyclopädie oder alphabetische Darlegung der wissenschaftlichsten Eigenthümlichkeiten des österreichischen Kaiserthumes)」である。第6巻の「あとがき」によれば、この事典は優れていたため刊行が始まるとたちまち、ザクセン公国とスイスで企画や体裁、タイトルを模倣したものが出

たという。

私の自慢の蔵書は前述の「解説と図説によるオーストリア・ハンガリー帝国」全巻とこの「オーストリア帝国百科事典」である。正確に言えば、入手に至るまでの長年の努力が実ったことをうれしく思っている。ベルリンの壁が壊れる前にブダペストの古本屋にあったものを、ウィーンの本屋を通して購入した。冷戦時代、東欧はドイツ・オーストリア関係の古書の宝庫で、しかも大変安く買えた。

いずれも刊行当時の帝国の様子が具体的に書かれているので面白い。私はこの二つを主として知ったかぶりをするために使っている。ことに後者は、日本では個人も大学も他に持っている人がいないと思われるので、安心して使える。私の文字通りの「会話事典」である。

(いのうえ・しゅういち 文芸・言語学系教授)

電子図書館シンポジウム報告

筑波大学・図書館情報大学統合記念公開シンポジウム「電子図書館の軌跡と未来 - ますます広がる図書館サービス」

標記シンポジウムが、筑波大学知的コミュニティ基盤研究センターと筑波大学学術情報処理センターとの協賛で、平成15年1月24日(金)に開催さ

れました。これは、筑波大学と図書館情報大学に先導的電子図書館が設置されて4年が経過したことを機に、これまでの経過を振り返ると同時に、電子図書館について、将来の有るべき姿を描くことを目的として企画されたものです。会場となった筑波大学大学会館国際会議室には200名を超える参加者が集まりました。



(公開シンポジウム会場)

[開催概要]

午前中は、チュートリアルと筑波大学電子図書館紹介が行われました。

チュートリアル：「電子図書館 - 概要と課題 - 」
筑波大学知的コミュニティ基盤研究センター教授
杉本重雄

筑波大学電子図書館紹介 (デモ)
筑波大学附属図書館情報システム課電子情報係長
山内 琢

午後は、北原筑波大学長の開会挨拶の後、山内
芳文筑波大学附属図書館長の基調報告がありました。
引き続いて、7名の講師による招待講演および
一般講演が行われました。以下に、講演の概要
を紹介します。

招待講演 「これからの大学図書館と電子図書館」
九州大学副学長・附属図書館長 有川節夫



(有川九州大学副学長・附属図書館長)

国立大学が法人化等の大きな変革に晒され、大学における教育研究の基盤をなす必須の組織としての地位を保障されてきた大学図書館にも変革が求められている中で、大学図書館の現状を概観し、これからの大学図書館と電子図書館機能のあるべき姿について講演していただきました。

招待講演 「デジタル情報の長期保存と利用」
国立情報学研究所教授 山本毅雄

国産コンピュータの出現から半世紀がたち、Webのスタートから10年以上が過ぎて、その間に作られ、利用されたデータの多くが失われている一方、デジタル情報が文化・学術の基盤を担うようになりつつある現在、デジタル情報の長期保存と利用の重要性が高まっていることについて、技術・施策・組織・心の問題にわけて現状と課題を論じていただきました。



(山本国立情報学研究所教授)

一般講演 「ハイブリッド図書館のビジネスアーキテクチャ」
筑波大学知的コミュニティ基盤研究センター教授
永田治樹

新しい情報環境に適応した図書館 (ハイブリッド図書館) について、英国の電子図書館プログラム eLib における、ハイブリッド図書館のねらいと、そのモデル (MIA : MODELS Information

Architecture) を確かめ、ハイブリッド図書館のマネジメントについてビジネス・アーキテクチャの視点から論じていただきました。

一般講演 「電子図書館への期待：人文系ユーザーの視点から」

茨城県立医療大学図書館情報課長 篠塚富士男

人文科学系の研究者・専門家は、貴重書の電子化をはじめとする電子図書館の問題についてどのように考えているか、ということを検討し、人文系ユーザーに対して電子図書館が与える影響と今後の期待について講演していただきました。

一般講演 「能動的電子図書館システムの構築に向けて - その機能と要素技術」

筑波大学電子・情報工学系教授 古瀬一隆

能動的電子図書館に求められる機能と、その機能を実現するために利用可能と考えられる要素技術について概説し、能動的電子図書館システムに必要な機能である検索結果の仲介機構や適応的情報提供の機構、それを支える技術に関する研究成果について講演していただきました。



(公開シンポジウム会場)

一般講演 「長期保存型電子図書館とOAIS参照モデル」

常磐大学人間科学部助教授 栗山正光

デジタル情報の長期保存の考え方の一つである、アーカイブ型の電子図書館システムの構築を考える際の、国際標準OAIS参照モデルの概要を紹介し、具体例として筑波大学電子図書館にこの参照モデルを適用した場合について論じていただきました。

一般講演 「図書館の未来は電子図書館によって開かれたか？」

熊本大学医学部附属病院医療情報経営企画部助教授 高田 彰

先導的電子図書館プロジェクトにより大学図書館の活性化が促進される状況で、新たな学術コミュニケーションの方法が模索され、多様な提案と活発な議論が世界的に展開されており、大学図書館の未来を再度考えてみる必要があると講演していただきました。



(公開シンポジウム会場)

今回のシンポジウムでは、各講演ごとに活発な質疑応答が行われ、熱気にあふれた会場からは電子図書館の今後に対する期待と関心の高さがうかがわれた一日でした。

(電子情報係)



本学教官寄贈著書紹介

平成14年10月～12月に寄贈を受けた本学教官の著書を紹介します。

(敬称略，寄贈者五十音順，所属は平成14年度のものです。[]内は配架場所と配架番号です。)

足立泰久(農林工学系)

- ・線形系の偏微分方程式：場を扱う応用数学の基礎と拡散方程式 上巻．イセブ(発売)，2002 [中央 413.6-A16-1]

新井 誠(社会科学系)

- ・信託法．有斐閣，2002 [大塚 348.82-A62]

岡本栄司(電子・情報工学系)

- ・暗号理論入門 第2版．共立出版，2002 [中央，図情 007.1-O42]

駒井 洋(社会科学系)

- ・日本の選択：もうひとつの改革路線．ミネルヴァ書房，2002 (Minerva21世紀ライブラリー：70)[中央 304-Ko57]

小松香織(歴史・人類学系)

- ・オスマン帝国の海運と海軍．山川出版社，2002 (山川歴史モノグラフ：2) [中央 683.226-Ko61]

齊藤慎一(体育科学系)

- ・食べて勝つスポーツ栄養の基礎知識：コンビニ・外食大活用．講談社，2002 [体芸 780.19-Sa25]

品川芳宣(社会科学系)

- ・附帯税の事例研究 第3版．財経詳報社，2002 [大塚 345.1-Sh58]

高森邦明(名誉教授)

- ・大正昭和初期における生活表現の綴り方の研究．高文堂出版社，2002 [中央 375.86-Ta44]

田島 裕(社会科学系)

- ・企業法学vol.9 / 企業法学会編．商事法務，2002 [中央，大塚 335.04-Ki16-9]

津田幸男(現代語・現代文化学系)，関根久雄(社会科学系)

- ・グローバル・コミュニケーション論：対立から対話へ．ナカニシヤ出版，2002 [中央 304-Ts34]

徳田克己(心身障害学系)

- ・障害理解の視点からみた「障害者の特性」．日本障害者雇用促進協会，1996 [中央，医学 369.27-N77]

星野 力(名誉教授)

- ・甦るチューリング：コンピュータ科学に残された夢．NTT出版，2002 [中央 289-Tu6]

吉田右子(図書館情報学系)

- ・レファレンスサービス演習．勉誠出版，2002 (図書館情報学の基礎：5) [中央，図情 010.8-To72-5]



私の一冊

齊藤 慎一

『食べて勝つスポーツ栄養の基礎知識：
コンビニ・外食大活用』

(講談社)

[体芸 780.19-Sa25]



この本はスポーツ栄養について、スポーツ選手への栄養サポートが一番得られにくい大学スポーツ選手や若い社会人スポーツ選手を念頭にまとめたものです。中学や高校のスポーツ選手の大部分は自宅通学ですので、家族の栄養サポートがしっかりあります。一方、親元から離れて生活する大学スポーツ選手は3食の食事を毎回自分で用意しなければなりません。現在、わが国経済はバブル崩壊後の長びく不景気下にあり、親からの仕送りに頼る大学スポーツ選手の学生生活を一層苦しめています。結局、切り詰めるところは食費となり、激しいトレーニングを支える食事があるそかになりがちです。

筑波大学の学生向け広報誌つくばスチューデントに「つくばスポーツライフ」というスポーツと食生活を内容とする記事を、管理栄養士の加茂美那子さんと、数年来連載しています。大学生に今さら調理技術などを教えることが必要か、という議論もあります。しかし、学生の食生活を確かにも、特に新入生段階ではまずなによりも必要だと考えています。この記事からピックアップし、そのままでは硬くて読み難い内容を、植田浩子、海老名友紀、小野祐子、川口昌代、島本篤、平田真理、三角素子の平成13年度卒業の体育専門学群生コンビがイラスト、デジカメ写真と分かりやすい言葉を使ってリメイクしてくれました(パート1：誰にでもできるスポーツ栄養学、パート2：自炊開始！とりあえずやってみるか)、パート3(スポーツ栄養学って、こう活用する)は、「スポーツ選手の栄養管理」という授業での課題発表を基にして、スポーツ栄養学のゼミナールの雰囲気わかるよう工夫しました。この本が、将来体育系大学でスポーツ栄養学を専攻しようと考えている高校生や大学生の参考になればと思います。

(さいとう・しんいち 体育科学系教授)





図書館メールサービスについて

昨年末より開始した図書館メールサービスですが、平成15年3月現在650名を超える皆様にご利用いただいています。前号に引き続きこのサービスについてご説明します。

Q：「図書館メールサービス」とは何ですか？

A：貸出中の本の返却期限が近付いていることや、予約した本が返却されたこと、図書館からのお知らせなどを電子メールでお知らせするサービスです。

Q：どうすればメールサービスを利用できますか？

A：図書館のトップページの「図書館オンラインサービス」のところにあるリンク「図書館メールサービス」を選択してください。表示されたページに、図書館の本人利用状況確認のために使用するログイン名とパスワードを使って、ご利用になりたいサービスを登録してください。

なお、図書館であらかじめ設定してある初期パスワードではメールサービスの登録ができないようになっています。初期パスワードのままの方は、まずパスワードの変更をしてから登録をお願いします。パスワードの変更もこのページから可能です。

Q：私は学外者ですが、メールサービスは利用できますか？

A：本人の認証に図書の貸出システムを利用しているため、サービスの登録は図書館の利用者IDをお持ちの方に限定させていただいております。ご了承ください。

Q：図書館メールサービスに登録した覚えがないのですが、「返却期限が過ぎた本があります」と

いうお知らせのメールを貰いました。

A：「予約本の返却通知」と、「延滞資料の督促」に限っては、メールサービスに登録されていない方にも、学務システムTWINSに登録されたメールアドレス宛にお知らせをしています。

Q：メールサービスに私の新しいメールアドレスを登録しました。この新しいメールアドレスは、TWINSにも登録して貰えるのでしょうか？

A：いいえ。メールサービスに新しいメールアドレスを登録されても、TWINSのデータは更新されません。TWINSには別に変更手続きをしてください。

Q：メールサービスに複数のメールアドレスを登録することはできますか？

A：残念ながら、現在は一つの利用者IDに対して一つのメールアドレスしか登録できません。

Q：現在の登録内容を確認したり、変更したい場合はどうしたら良いですか？

A：メールサービスのページから図書館の利用者IDとパスワードを入力して、「登録/変更画面へ」をクリックして下さい。

Q：「携帯電話用の簡潔なメッセージを希望する」を選択しているのですが、長いメールが届いて全部読むことができませんでした。

A：図書館からお送りするすべてのメールについて携帯電話用の短い文面でお送りするわけではありません。現在は、延滞本の督促・予約本返却通知はすべての方に同じ形式でお送りしています。

Q：メールサービスの利用を中止したいのですが、どうすれば良いですか？

A：メールサービスのページで、利用者IDとパスワードを入れた後、登録したメールアドレスを削

除していただければ結構です。

Q：メールサービスに登録したのに、今まで図書館から一通もメールが届いていません。

A：メールサービスに登録すると、登録されたアドレス宛にその旨を知らせる電子メールが送られます。メールが届いていない場合は、登録/変更ページで、ご自分のメールアドレスが正しいも

のであるかどうか再度ご確認ください。

電子メールを利用したサービスについての、皆様からのご意見・アイデアを歓迎いたします。ぜひvoice@tulips.tsukuba.ac.jpまでお寄せくださるようお願い致します。



とひらくす

[学外]

平成14年度国立大学附属図書館事務部長会議

平成15年1月23日(木)ホテルグランヴェール岐山において、岐阜大学の当番で開催されました。

[協議事項]

図書館職員のスキルアップ方策について 図書館外部評価の実施とその成果について 国立大学法人化後の図書館の在り方について

第15回国立大学図書館協議会シンポジウム(東地区)

平成14年11月26(火)~27日(水)千葉大学けやき会館3階レセプションホールにおいて、千葉大学の当番で開催されました。

[テーマ]

国際学術コミュニケーションの展開と展望

[基調講演]

国際学術コミュニケーションの現状と展望

[報告]

- ・国際図書館コンソーシアム連合の活動
- ・日本における電子ジャーナルコンソーシアムの現状
- ・図書館が中心となった学内合意形成事例報告：北海道大学における学術研究コンテンツの整備方策の策定について

[特別講演]

- ・SPARC / Japan活動と今後の取り組み

[報告]

- ・SPARC : Advocacy in Scholarly Communication
- ・国際ILL / DDの現状とGIFの課題

[学内]

第252回附属図書館運営委員会(12月開催)

[審議事項]

筑波大学附属図書館専門図書館委員会細則の制定について 各専門図書館委員会委員について 筑波大学附属図書館利用細則第4条別表第1の運用について(教員特別貸出冊数の特例措置)の一部改正について

[報告事項]

電子図書館専門委員会(第12回)について 附属図書館の中期目標・中期計画について 平成14年度大型コレクションの採択結果について 平成15年度科学研究費補助金(研究成果公開促進費)の申請について 図書館メール・サービスの開始について 特別展『『学問の神』をささえた人々~北野天満宮の文書と記録~』について 電子ジャーナル関係タスクフォースの立ち上げについて 学系等資料室の設置について

第253回附属図書館運営委員会(1月開催)

[審議事項]

筑波大学附属図書館文献複写規程の一部改正に

ついて 平成15年度附属図書館年次計画について
電子ジャーナル等対応WGの設置について

[報告事項]

ボランティア専門委員会(第7回)について
「体芸図書館ポスター展2003」の開催について

掲示板

「体芸図書館ポスター展2003」を開催

平成15年2月3日(月)~2月28日(金)まで体育・芸術図書館ラウンジにてポスター展が開催されました。体育・芸術図書館で収集・保存しているポスターの中から女性画を中心に100点余が展示され、図書館に来られる方々が気軽に立ち寄り、貴重なご意見やご感想を寄せてくださいました。楽しい、おもしろい、これからもこのような展示を続けて、等々の感想や意見が多く寄せられ、好評でした。芸術学系の教官、大学院生、学群学生、附属図書館ボランティアの皆さん、そして図書館職員の協力で実現した楽しいポスター展でした。



ポスター展に立ち寄られた金田芸術学系教授，
山内館長，北原学長，岩崎副学長（左から）

貸出時間延長のお知らせ

平成15年4月1日から、土日祝日と春季・夏季休業期間の貸出時間を、下記の通り延長します。

・実施図書館

中央図書館

体育・芸術図書館

医学図書館

図書館情報学図書館

・土日祝日開館時(13時~18時に開館している日)

現行の貸出時間 14:00~17:00

新しい貸出時間 13:30~17:30

・春季・夏季休業期間中の開館時

(9時~17時に開館している日)

現行の貸出時間 9:00~16:00

新しい貸出時間 9:00~16:30

*医学図書館は、20時閉館、貸出は19:30
まで

ご不明の点につきましては、各図書館のメイン
カウンターにてお問い合わせください。